『四国地方と測量』　第２話　　FN生　著

★ 讃岐藩士 佐立七次郎

日本水準原点は、国内の高さの基準として多くの人に知られています。日本水準原点といった場合には、地下10メートルから立ち上がって地表に出て零分画線の刻まれた水晶板がはめ込まれている水準標石と、それを覆っている標庫（建屋）を総称しています。普通に見学した場合には標庫しか見ることができません。

これを設計し建築したのは、明治期の建築家佐立七次郎です。佐立七次郎は讃岐藩士で、工部大学校造家学科第一期生４名（佐立七次郎、辰野金吾、曽禰達蔵、片山東熊）の一人です。佐立七次郎が関わった現存する建築物としては、北海道の小樽にある旧日本郵船株式会社小樽支店（明治 39 年 10 月竣工）の建物も有名です。

両方とも建築様式に特徴があり、前者は東京都指定有形文化財、後者は国指定重要文化財となっています。

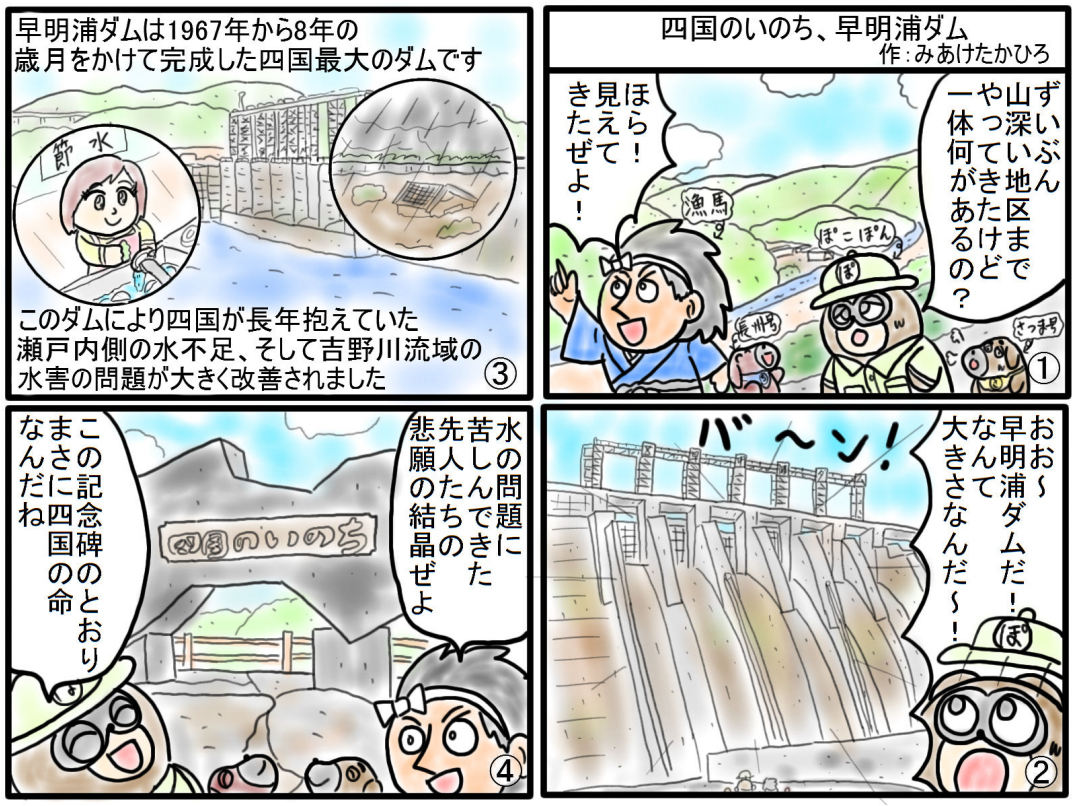
★ 伊予の二宮敬作

二宮敬作については医者としての名が知れわたっていますが、近代洋式の測量器械で最初に富士山の高さを測量した人物でもあります。

敬作は伊予の八幡市保内町磯崎の出身で、若いとき医学を学ぶために長崎に行き、オランダ商館医のシーボルトの鳴滝塾で学んでいます。商館長が江戸参府するさいに同行したシーボルトに命じられて、富士山の高さを測量しています。そのとき得た高さは、3794.5mです。

後年シーボルト事件に連座し、宇和島に帰っていますが、シーボルトとの約束どおり子供のイネを自宅で養育し、教育をしています。30年後には、シーボルトが再び日本にやってくることを聞き、長崎に向かいその時を待ち、やがて再会しています。

現在、長崎市の寺町にある皓台寺でイネとその母タキの三人で眠っています。



ぽこぽん劇場